

豊前宇都宮氏と豊臣政権

歴史シンポジウム

主旨

戦国時代末期、九州では島津氏、大友氏の二大勢力の均衡が崩れるなか、豊臣政権の九州統一が果たされた。しかし九州国分の後、秀吉の後ろ盾により黒田氏の領国となった豊前国では、旧領主の城井鎮房、野仲鎮兼を中心に宇都宮氏一族の国人一揆が勃発した。次々と鎮圧される宇都宮一族と最後まで抵抗する鎮房。巨大権力の豊臣政権に対して、地方のわずかな勢力の宇都宮氏がなぜ反旗を翻したのか。

今回のシンポジウムでは鎌倉時代より豊前国入部400年間の歴史を持つ中世武士団、豊前宇都宮氏の歴史を出身地の下野国や一族の伊予国、豊前国の宇都宮氏の全体像を明らかにし、そして豊臣政権の九州統一と豊前宇都宮氏一族の反乱と滅亡の歴史的意義を地域の立場から検証し、宇都宮氏の残した史跡や歴史研究の進展、また歴史文化を活かした地域振興と郷土への愛着を深める契機としたい。

講師紹介

小和田 哲男 (静岡大学名誉教授)

■演題「豊臣政権と九州統一」

1944年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。静岡大学名誉教授。戦国時代史研究の第一人者。戦国時代や戦国武将のリーダーシップ論から現代社会を生き抜く教訓として展開する講演は好評を博している。『後北条氏研究』『近江浅井氏の研究』『黒田如水』のほか『小和田哲男著作集』、ベストセラーとなった『日本の歴史がわかる本』など著書多数。NHK「歴史秘話ヒストリア」などに出演し、わかりやすい解説に定評がある。NHK大河ドラマ(1996年「秀吉」、2006年「功名が辻」、2009年「天地人」、2011年「江～姫たちの戦国」)の時代考証も務め、2013年NHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」の時代考証を務める。

市村 高男 (高知大学教授)

■演題「中世宇都宮氏の成立と展開」

1951年生まれ。東京都立大学人文科学研究科博士課程単位取得退学。高知大学教育研究部総合科学系黒潮科学部門教授。『戦国期東国の都市と権力』思文閣出版、『中世東国の内海世界』(監修)高志出版、『東国の戦国合戦』吉川弘文館

土居 聡朋 (愛媛県歴史文化博物館)

■演題「伊予宇都宮氏について」

1970年生まれ。広島大学教育学部卒業。「愛媛県伊予郡砥部町光明寺所蔵・版本五部大乘経について」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』12、「宇都宮貞泰の活動について」『伊予史談』367号

則松 弘明 (豊前宇都宮氏研究者)

■演題「豊前宇都宮氏と黒田氏」

1946年生まれ。九州大学法学部卒業。築上町出身。勤務のかたわら宇都宮氏関係の古文書を研究。豊前宇都宮氏研究の第一人者である。『鎮西宇都宮氏の歴史』翠峰堂、『中世武士団・鎮西宇都宮氏の研究』I・II 翠峰堂、『呪詛の時空 宇都宮怨霊伝説と筑前黒田家』海鳥社

高尾 栄市 (築上町教育委員会)

■演題「城井谷の城館跡」

1962年生まれ。法政大学法学部卒業。平成4年より築上町で埋蔵文化財発掘調査に携わり、宇都宮氏館跡・山城調査を担当。『国東・日田と豊前街道』外園豊基編 吉川弘文館、『京築を歩く』共著 海鳥社



『城井軍記実録』
家臣の渡辺左京亮義春が承応3年(1654)に書いた宇都宮氏戦国期の軍記。



『城井谷絵図』(築上町所蔵)
文政7年(1825)の写しで、表書きから元禄7年の貝原益軒の『豊国紀行』の絵図と判る。表掲載の『豊前国城井谷絵図』と同じく宇都宮氏の館や城跡が描かれる。



『宇都宮家譜』
安永2年(1773) 恵良氏写し



『宇都宮鎮房奉納額』
(小山田・広峯神社所蔵)
天正11年(1583)、鎮房が疫病退散祈願の満願成就を記念して午頭天王宮に奉納した額。